

2008年(平成20) **11**月

カルメル
霊性センターニュース

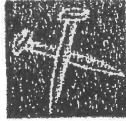


237号

DE IMITATIONE CHRISTI

キリストにならう

——バルバロ訳——



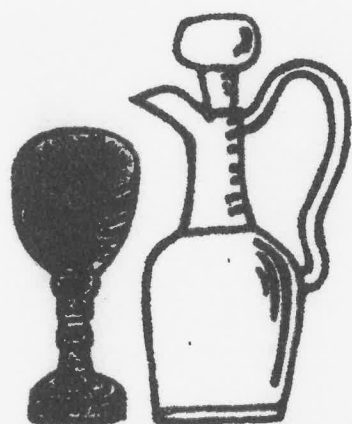
第一巻

第7章 空しい期待とうぬぼれを避ける

3 傲慢とねたみから遠ざかる

他人よりも自分のほうがよいと思ってはならない。そう思えば、人間の心底を知る神のみ前に立つ時、誰よりも悪い者だとされるであろう（ヨハネ2・25参照）。自分の善行にうぬぼれてはならない。神の裁きは人間の裁きとは異なり、人のほめることを、とがめることがよくあるからである。何かよいところを自分ももっているなら、ほかの人は自分よりもすぐれたところをもっていると思いなさい。それは謙遜を保つためである。自分は誰よりも劣っていると思うなら、あなたは損失を受けない。しかし、自分はただ一人の人にでもまざっていると思うなら、多くの損失を受ける。謙遜な人には、絶えることのない平和があるが、おごり高ぶる人の心は、怒りとねたみとで、しばしば湧き立つのである。

心の泉



幼きイエスのマリー・エウジェヌ神父 ocd

—現代の十字架の聖ヨハネ— (22)

神の存在、その命とは

ご自身を与えることです

神は ご自分の愛を

絶えず注ぐことしか

おできになりません

—幼きイエスのマリー・エウジェヌ ocd



1958年ルルドで祈る
マリー・エウジェヌ師

美しい秋晴れの日々に大自然のなかで時間が流れいく・・・あるいは秋のさまざまな行事に忙しく過ごし、気がついてみるともう十一月。教会では諸聖人、死者の日ではじまる十一月は死者の月となっています。月の最後の日曜日はもう待降節第一主日です。教会の典礼では新しい年となるこの時期に自分と神との関係、「愛によってわたしを呼ばれた神との関係」をあらためて見直してみるのもよいでしょう。

「わたしを創造された愛は常に生きています。神が愛されたものは、常に愛されています。わたしにくださったものは、いつもわたしのものです。あなたのうちにはじめたことを神は必ず成し遂げられるでしょう。」

このことは、神からあまりにも遠く離れてしまっていると思われる人にもあてはまります。神にとっては「もしも」や「でも」はありませんから。例外なくすべての人にとって神は愛です。「この方において《然り》だけが実現したのです」(Ⅱコリ 1・19) とパウロは言っています。

私に出来ることはこのような果てしない神の愛を信じ、その愛に委ねていくことです・・・日々の日常生活のなかでどんなに自分の貧しさ、罪、弱さを体験しても「ご自分の愛を絶えず注ぐことしかおできになれない神」を信じて。神が愛であるということは「ご自身の命を絶えず注がれる」ということであると幼きイエスのマリー・エウジェヌ師は繰り返し強調していました。

伊従 信子

ノートルダム・ド・ヴィ

『必要なことは、ただ一つだけ』(40)

ルドルフ・デ・スーザ OCD (カルメル会)

私たちが神の言葉を心の中で推論的に分析するならば、私たちの心の中に入って
くる神の言葉の自由な流れをさまざまに、止めてしまうのです。というのは、私たち
の思考が、私たちの中におられる神の強さを弱めてしまうからです。私たちの心は、
み言葉を傾聴するために、オープンで、寛大に準備された土地であるべきです。そ
うすれば、そこからの実りは百倍にもなるのです。神の言葉に耳を傾ける時、ある
いは他者の言葉に耳を傾ける時、神の言葉や他者の問題に、自分自身の感情や考え
を投影しないようにしましょう。私たちは、その言葉が私たちの内に自然にしみこ
むように心がけて、聞くべきです。そのように他者に耳を傾けるならば、私たちは
祈りの内に、彼らが彼らの問題から解放されるよう助けることができるのです。

練習2

祈りの時、あなたのまわりのあらゆるタイプの音に耳を傾けることから始めてく
ださい。車の音、庭に来る鳥のさえずり、そよ風の音、時計のチックタック、自分
の呼吸などに耳を傾けてください。そうすることによって、私たちのまわりにある無
数の音に気づくように導かれます。それらの多くは、おそらく私たちはかつて祈り
の間、一度も聞いたことのないものかもしれません。しばらくしてから、あなたの
注意を一つの音から他の音へ移してください。それから、快い音、一つの音だけを、
心の中に何のイメージも浮かべることなく、聞くようにしてみてください。この音
を保持するようにしてください。そうすれば、徐々にこの音も消えうせてゆくのに
気づくでしょう。あなたがこの深い沈黙に気づくようになったならば、別の音を拾
い上げてください。この音もまた沈黙へと導くことでしょう。こうして最後に、あ
なたは深い沈黙の中に沈み込むこととなります。これは、祈りへの王道を準備して
くれるのです。

考察のための問い

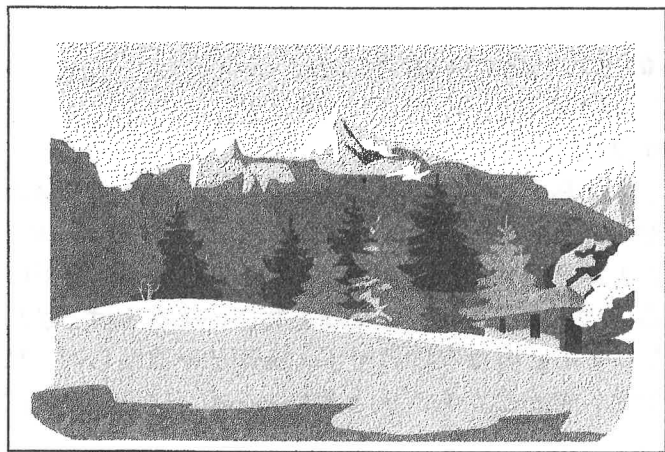
- a) あなたは自分の心に耳を傾けていますか。あるいはあなたはいつもあなたの知
性に耳を傾けていますか。
- b) あなたの良心に耳を傾けることに対しては、どうですか。あなたは良心に対し

て耳は閉じていますか。

- c) 他者が言っていることに注意深く耳を傾ける時間を取っていますか。あるいは、人があなたに話しかける時、聞く代わりに、自分自身の判断を勝手に下し、自分を防御する準備をしていますか。
- d) 彼（彼女）の問題に耳を傾けることによって、その人を幸せにすることができますか。
- e) あなたは、人が耳を傾けてほしいと思っていることを知らなくてはなりません。
- f) あなたは、他者の言葉や表現の中に神を見出していますか。
- g) 他者に耳を傾けるために、あなたはどれだけの努力をついやしていますか。
- h) あなたは、聞くこととは世話することであり、愛することであることを知らねばなりません。
- i) あなたが悪い知らせや悲劇や殺人や暴力などと耳にする時、どのような反応をしますか。あなたのまわりに起こる痛ましい出来事を、あなたはただ無視しますか。もしあなたが無関心であるならば、一人ひとりを、またすべての人を気づかっている神に、どうして真剣に祈ることができるのでしょうか。
- j) 周囲の状態に耳を傾けてください。そうすれば、おそらくあなたは、あなたに話しかけておられる神を感じることでしょう。

「無益なことを聞くたのしみからは、すぐに気が散ったり、おしゃべりになったり、嫉妬や不確かな判断、さまざまな思い、その他数多くの危険な弊害が生ずる」(『カルメル山登攀』3,25,3)。

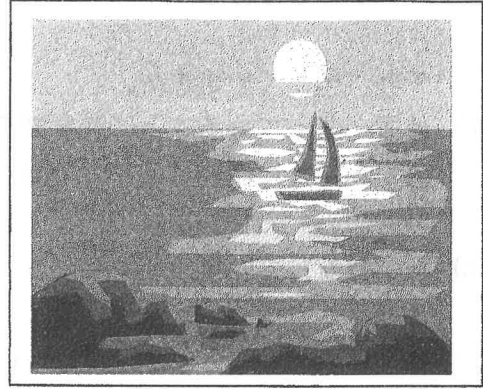
(続)



(九里 彰訳)

ヘンリ・ナーウエンの

旅路の糧 (115)



心の中のぼんやりとした領域における友情

私たちの心の中には、自分でも見通すことのできないぼんやりとした領域があります。私たちが自分自身についてかなりたくさんのこと—才能や弱さ、野心や向上心、動機や衝動など—を知っている時でさえ、心の大部分は、私たちの意識の陰に隠れているのです。

これは、とてもよいことです。私たちは、いつも自分自身に対して部分的に隠されているからです。他の人々が、特に私たちが愛してくれている人々が、しばしば私たち以上にこの心のぼんやりとした部分をよく見ることができます。他の人々が私たちを見て理解する仕方は、私たちが自分自身を見て理解する仕方とは異なります。私たちは、友達の人生における自分の存在意義を決して完全には知らないでしょう。それは、恵みです。私たちを謙遜へと導くばかりでなく、私たちが愛している人々を深く信頼するようにしてくれる恵みだからです。真の友情が生まれるのは、私たちの心の中のこのぼんやりとした領域なのです。

(0324)

私たちの孤独を分かち合うこと

友達は、時々私たちがいやし、神の赦しを与えてくれるにしても、心理療法士とか聴罪司祭以上のものです。

友達とは、私たちが、自分の孤独、自分の沈黙、自分の祈りを分かち合うことのできる他の人のことです。友達とは、私たちが、一本の木を見て、「きれいだね」と言うことができ、砂浜に坐り、静かに陽が水平線の下に消えて行くのを見ることができる他の人のことです。友達と共にいるならば、私たちは特別なことを言ったり、したりする必要はないのです。友達といるならば、私たちは静かにそこにいることができ、神が私たち二人と共におられることを知ることができるのです。

(0323)

九里 彰訳

死者の日

「わたしの父の御心は、

子を見て信じる者が皆永遠の命を得ることである」

(ヨハネ 6 : 37 ~ 40)

16世紀の半ばから、修道院では慣習として聖霊降臨後の日を自分たちの修道院の帰天した修道士たちのための祈りの一日としていました。クリューニイ修道院は、諸聖人の祭日の翌日、すなわち11月2日に死者の日のミサや祭儀をとりおこなう習慣を確立しました。諸聖人の祭日は14世紀に一般に多くの教会で祝われるようになりました。全ての霊魂の日(死者の日)に多くの迷信的な習慣がある一方で、今日の祭礼の神学的基盤は、私たち弱い人間にかかわらず、神があわれんでくださることへの認識と、生きている者と死んだ者の希望としてのキリストの認識にあります。昨日聖人たちの勝利を荘厳に祝い、今日この世から神の生命へ移り変わるものとして死の現実を厳粛により厳しく祝うことに焦点を当てています。

ヨハネ 6 : 37 ~ 40において、イエスは神が全ての人間家族の救いと永遠の命を望まれ、復活の手段としてイエスを上げられたと繰り返し、「生命のパン」の話を締めくくります。死者の日は死とこの世や愛する者から去っていく苦しみという避けられないものへ私たちを直面させます。しかし、父なる愛する神への信仰は私たちの恐れを信頼と希望で弱めます。私たちは毎日ご復活の日の空のお墓への約束に生きていますし、私たちの一步一步は復活されたキリストの光で導かれています。私たちは、信仰により死が終わりではなく始まりであると見ることができます。復活の日の夜明への私たちの信念は、永遠の春に新しい生命が来るのを待ち望んで、冬の心を暖めてくれます。

キリストにおいて、神は私たちの救いに対して主導権をとられます。私たちのあがないに対して、神は最初と最後の手を打たれます。神は私たちがどのような状態であっても呼んでくださり、喜んで迎え、私たちの疑い、恐れ、悲しみにかかわらず、抱きしめてくださいます。洗礼の水の中で私たちは神の生命に入り、死において私たちの洗礼の旅は完成し、キリストと共に私たちの過越は完全なものになります。ちょうど私たちがキリストといっしょにこの人生を生きてきたように、私たちはキリストといっしょにこの世に別れを告げます。私たちをキリストの死の一部とした洗礼は、今や私たちをキリストの復活の一部としています。

(Sr. Paulina)

ラテラン教会の献堂(年間第三十二主日) ヨハネ2, 13-22

「『この神殿を壊してみよ、三日で立て直して見せる。』・・・イエスの言われる神殿とは、ご自分の体のことだったのである」(ヨハネ2, 19. 21)。

今日の典礼は、ローマの司教、教皇の司教座聖堂、ラテラン教会の献堂を記念します。そして読まれる福音は、「ヨハネによる福音」からのものです。実は、聖書、特に「ヨハネによる福音」では、「神殿」との用語で示唆される対象は、第一には、エルサレムの神殿という建築物、そして受肉した「みことば」イエスの体、また、イエス・キリストに信じる者の「生」です。

イエスの時代、神殿はイスラエルの信仰生活の中心であり、旧約聖書に記述された神とイスラエルの出会い、愛の交わりの歩みを記念する、つまり、過去の歴史を想起し、未来の成就を希望し、今、この神の愛の営みの中に生きていることを宣言する典礼祭儀が連綿と挙行され、アブラハムへの約束、全世界、全人類への神の祝福の証しとなっていました。実は、「わたしは自らにかけて誓う、と主は言われる。あなたがこのことを行い、自分の独り子である息子すら惜しまなかつたので、あなたを豊かに祝福し、あなたの子孫を天の星のように、海辺の砂のように増やそう。・・・地上の諸国民はすべて、あなたの子孫によって祝福を得る」(創世記22, 16-18)と告げられていました。この全人類への祝福を、モーセに導かれた出エジプトの旅を原型とする神の憐れみの愛の救いの計画、天地創造から始まり、栄光の内にならぬ成就、完成されると約束された計画の内に想起し、希望、待望する、これがイスラエルの使命でした。そして、この待望の熱気が頂点に達するのが、まさに「ユダヤ人の過越祭」でした。

「ユダヤ人の過越祭が近づいたので、イエスはエルサレムへ上って行かれた」。イエスと弟子たちも、このイスラエルの使命に誠実であろうとしていたのです。神殿に入るとそこには「異邦人の庭」といわれる広場、神の祝福が全人類に波及していることを示唆する名称を持つ広場がありました。しかし、現実には、ここで牛や羊や鳩が売られ、両替人たちはお金の両替に忙殺されている光景をイエスは目にしました。確かに、これらの動物や献金は、イスラエルの歴史に示された異邦人にも開かれた愛の計画の中に生きていることを表明する、いけにえ、捧げ物でした。しかし、すべての人類と世界に開かれた救いの約束を待望する、この展望はかすんでいた、これが現実です。イエスは、叫びます。「このような物はここから運び出せ。わたしの父の家を商売の家としてはならない」。弟子たちが主イエスの行動を目の当たりにして想起した聖書の言葉は、「あなたの家を思う熱意がわたしを食い尽くす」(詩編69, 10)です。「あなたの家」、つまり神殿は神の救いの計画が記念される場です、神の救いの計画の成就を願う熱意がイエスを心底から、身を焦がすほどに突き動かしていたのです。このイエスの「体」が、いまや、真実の神殿、神の全人類への愛が、想起され、待望され、生きられる原点となります。日ごとに、聖堂の祭壇で挙行される主の十字架の死と復活の記念、聖体祭儀は、全人類と世界に開かれた新約の神の民の信仰と希望、そして愛の宣言の頂点なのです。

ルカ 渡辺幹夫

年 間 第 33 主 日 (A) (マタイ 25:14~30)

日々の経済的なやりくりのむつかしさを感じる時イエスのこのたとえ話は他のどの時代よりも今を生きる私たちに響くものかもしれません。旅に出る主人から財産を預けられた二人の僕は、そのお金でよい商いをし利益を添えて主人に返しました。福音書はどれ程主人が喜んだかを表しています。「忠実なよい僕だ。よくやった。お前は少しの物に忠実であったから、多くのものを管理させよう、主人と一緒に喜んでくれ。」

旅に出ようとする主人が誰であるか、記されていませんが私たちにはそれが私たちのよき主であることがわかります。主は私たちに与えられているタレントや才能を使うチャンスを与えます。主人は、「かなり経ってから」帰って来て清算を始めます。このかなりの時間は私たちのこの世の生活であり、主人と共にする喜びは永遠のいのちの喜びです。このよい僕たちに更に与えられた責任ある仕事は、人々が永遠のいのちに到達するように主人と一緒に人々を助け、導き、祈り、啓蒙していくことです。

一方、三番目の僕は神の寛大さを、私たちに対する神の愛と信頼の思いを神の試みと思い込んでしまいました。多くの人々は神が愛であり、私たちのよき父であり、やさしい母であり友であることを理解しようとしません。「ご主人様、あなたは蒔かない所から刈り取り、散らさない所からかき集められる厳しい方だと知っていましたので、恐ろしくなり、出かけて行ってあなたのタレントを地の中に隠して置きました、御覧下さい、これがあなたのお金です。」この僕の大きな過ちは彼に与えられているタレントに目を留めなかったことです。そしてその生涯を彼だけに与えられている大切なものと思わなかったことです。彼はタレントを使ってまわりの人々に仕え、まわりの人々をいたわり、愛することをしませんでした。彼は真理に対して目を閉じ、正しく善良であることが出来ませんでした。皆さん、今日の福音は自分自身を過小評価することのないように、自分勝手な錯覚、思い込みを持って生きることのないように、自分を他人と比較せず、あなたに与えられているタレントを大切に最大限に有効に使って日々生きようと懇願しています。真理を愛し、人々と共に一生懸命働き、正しさと善良さを守り、内容の乏しい表面的なことを避けるようになさい。あなたの今日の一日は来るべき永遠の幸せに開かれているものだからです。

(Sr. Paulina)

王であるキリスト マタイ 25, 31-46

「お前たちのために用意されている国を受け継ぎなさい」(マタイ 25, 34)。

ずいぶん以前のことですが、次のような記事を読みました。ある天災にまわれ家屋も農地もすべてを亡くした農夫が語っていました。「この悲劇を耐えられたのは、呆然と立ち尽くす自分が握っていた幼い息子の手、状況をはっきりとは認識することさえもできない幼い手、その温もりであった。そのとき心の底から湧き出てきた思いは、『神様、ありがとう』と。この時、何もできない幼子が、強力な経済支援も及ばない質の勇気を父親の魂に注いでいたのでしょうか。

今日の福音でイエスが指摘される「この小さい者の一人」とは誰でしょうか。人間として地上に生かされている一人ひとり、わたしの家族の一人かもしれませんし、偶然、町ですれ違う労働者かもしれません。また、テレビのブラウン管に登場した遠く離れて出会うことは絶対にないであろう東南アジアの田舎に住む一人の少女かもしれません。この一人ひとりを前に、わたしたちに期待されていることは何でしょうか。「自分も小さい者の一人である」と認めることではないでしょうか。そして、ここに留まるのではなく、ここから関わりの接点を見つめて行く、小さい者にできること、小さい者だからこそできる世界が、大きく開かれていることに気づかせていただくことではないかと思います。この気づきの底には、イエスが現存しているのではありませんか。

イエスこそが、自分から関わりに入ってくる方、柔らかい心、共感し、共鳴し、共に痛みを嘆き、分かち合うことのできる人なのではないでしょうか。そう、「神であることに固守しようとはせず、人間となり、死、しかも十字架の死に至るまで従う者となった」(参照コリント 2, 5-8)。イエスが、罪の帰結、死、十字架の死をも愛の究極の証しに変えられた時、そのすべてのものから良いものを造り出す、どのような巨悪の力も抵抗できない王であることが示されたのです。わたしたちは、このイエスが唯一の主、究極の王、最終の審判者であると宣言しているのです。イエスは、王、断罪するのではなく、今日、ご自分と共鳴して生きようと望む人たちの救いを宣言する審判者です、「用意されている国を継ぎなさい」とは。

ルカ 渡辺幹夫

待 降 節 第 一 主 日

「目を覚ましていなさい」 (マルコ 13: 33-37)

新しい典礼年の初めに、そして聖なる待降節の初めに最初の福音記者であるマルコ福音書が読まれます。マルコの時代の人々は今日の私たちと同じ経験をしていましたからマルコ福音書が読まれることは的を射てることです。マルコの時代の人々はイエスが神の御子であることを知っていました。また神の国についてのイエスの教えを知っていました。彼らはイエスの死と復活のを知り、イエスの再臨を確信していました。彼らは熱心にこの約束された事を待っていました。

私たち一人ひとりもこれらの真理を知っています。私たちも熱心にキリストの来臨と神の国の到来を待っています。実際に私たちはこれらの事を度々祈り求めています。主の祈りを唱えるたびに「神のみ国が来ますように、神のみ心が行われますように」と祈ります。いつも親しみくり返し唱えるこの祈りの力強さと重み、深みを少し感じなくなっているのかもしれない。

主の来臨を待ち望むことは待降節の大切な側面です。しかし待降節の間に私たちは二つの異なったキリストの来臨を意識します。一つは馬小屋の、かいば桶の中で眠るか弱く、傷つけられ易い幼子キリストの来臨です。教会では待降節の四週間を通して主のご降誕の場面の飾りを少しずつ増やして行き、ついにクリスマスが来て人となられた幼子イエスの誕生という大きなよろこびの現実をお祝いします。

もう一つは必ず戻って来ると約束された私たちの救い主キリストの来臨です。たとえ話の中で旅に出る人が、門番に、気をつけて目を覚まし彼の帰りを待つようにと言いつけたように、私たちはキリストが来られる日を準備して待つべきです。主は人類の罪を裁くために来られるということもよく知っている私たちです。私たちは主が望まれるようにキリスト者としての生活を日々送っているでしょうか。私たちキリスト者は洗礼や堅信を通していただいている豊かな賜物と、ご聖体によって養っていただいている素晴らしい恵みを深く心に留め、日々の生活の原動力にしなければなりません。現代の物質本位の唯物的な考え方や、物を大切にしない使い捨ての風潮の陰に潜む悪の魔力に逆らい、きっぱりとこれを拒絶して生きなければなりません。私たちは社会に受け容れられない人々の声となり、みんなの幸せを願い、働くように召されています。まわりの人々に対して、神の体験者、いつも神と共に生きる者としての恵みが与えられています。どうかこの恵みの中でこの恵みによって平和に生き、人々を愛し、人々のために祈り、人々に仕えて行く日々を過ごして下さいますように。

(Sr.Paulina)

…ケリトの水にうるおされて…

カルメルの聖人たちの祈り

19. 幼いイエスの聖テレーズ (1873-1897) — その10

テレーズ・マルタンは、フランスのアランソンで、大変愛情深く敬虔な家庭に生まれた。4人の姉のうち3人は、リジュー・カルメル会における修道生活においても姉妹となった。

1888年、15才でカルメル会に入会。正式な修道名は「幼いイエスと尊き面影のテレーズ」であった。テレーズは聖人になりたいと望んでいた。他の聖人たちのように偉大なことはできないと知っていたが、それでも預言者、司祭、宣教師、使徒になって五大陸を駆けめぐりたかったのである。ある日、彼女は自分の使命が教会の心臓の中で愛となることであることに気がつく。彼女が見出した霊的幼子の小さな道には、何でもないような小さなことをイエスに捧げることが含まれていた。彼女は自分自身の弱さそのものをイエスに捧げ、他人に気付かれることも評価されることもない小さな事柄を行う機会を探し、静かに謙遜に奉仕した。テレーズは「神のいつくしみの愛」に身を捧げた。自分が神のあわれみに頼らなければならないこと、神のあわれみは神の正義に勝るものであることを信じていたのである。彼女は神の腕の中にいる子どものように、完全に自分を神に委ねきっていた。結核が重くなってからも、長上への従順によって、自叙伝を書き記した。最も深い信仰の暗夜を体験しながらも、喜びをもって苦しみを受け、1897年9月30日に帰天。1925年列聖。1927年、聖フランシスコ・ザビエルと並ぶ宣教の保護者に上げられ、1997年、教会博士の称号を受けた。

聖テレーズの両親マルタン夫妻は、今年10月19日にリジューの大聖堂で列福された。聖テレーズは「神様は、私にこの世よりも天国にふさわしい父と母をお与えくださいました(ベリエール神学生あての手紙、1987年7月26日)」と書き残している。



幼いイエスの聖テレーズ

—— 祈り ——

イエスさま、御母に抱かれたあなたが
その御腕から離れ
悲しいこの世に
震えながら最初の一步を踏み出そうとしておられるのを
見るとき
あなたの前で 私は一輪の薔薇を
新鮮なうちに
むしりたい
あなたの小さな足が そっと優しく乗せられるように
一輪の花の上に！

神なる幼子よ
このむしられた薔薇は 毎瞬毎瞬 あますところなく
あなたのために自分をいけにえとして捧げたいと望む心の
忠実なかたどりなのです
主よ、あなたの祭壇の上で 輝いていたいと望む
薔薇がたくさんあります
その薔薇はあなたに自分を与えているのです……けれど
私は他のことを夢見ています
むしられることを！

豪華な薔薇はあなたの祭日に輝きを添えることができます
愛らしい幼子よ
でもむしられた薔薇は
放り出されて
吹き飛んでいくだけです
むしられた薔薇は 心から自分を与えます
なくなってしまうまで
そのように、私も喜んで自分をあなたにお委ねします
小さいイエスさま

幼子よ、至高の美よ、私は死ななければなりません、あなたのために
なんという祝された定め！
むしられながら、私はあなたに証ししたい
私があなたを愛していることを おお私の宝よ！
この世では あなたの幼い歩みの下に
隠れて生きたい
そして、カルワリオでもう一度やわらげたいのです
あなたの最後の歩みを！

(詩51「むしられた薔薇」より)

* * * * *

この記事は、跣足カルメル在俗者会員ペニー・ヒッキー氏が編集された Drink of the Stream: Prayers of Carmelites (Ignatius Press, San Francisco, U.S.A., URL <http://www.ignatius.com>) の中から、出版社の許可を得て、抜粋・邦訳したものです。

(注)タイトル中の「ケリトの水」とは、主が預言者エリヤに言われた、「ここを去り、東に向かい、ヨルダンの東にあるケリトの川のほとりに身を隠せ。その川の水を飲むがよい。わたしは鳥に命じて、そこであなたを養わせる(Ⅰ列 17:3-4)」ということばに由来しています。

(泰阜カルメル会訳・編)

十字架の聖ヨハネ こぼれ話 (19)

ホセ・ヴィセンテ・ロドリゲス o.c.d.

お菓子 (2)

そうすると、ヨハネ修父は少し考え込み、それから、この証人にこう言いました。

「フラーノ神父の修室に行きなさい。修室の外にあるひさしの上に、それらの箱を見つけるでしょう。そしてそれらを持ってきてください」。

この証人は行って、言われたとおりのところに箱を見つけ、持ってきました。その後、クリスマスが過ぎた頃、箱を運んでいただくの修士を呼び、やったことに対して非難しました。ところが、彼はそれを否定し、こう言いました。

「彼が箱を運んだ方法というのは、チュニカの中に箱をいれ、ピンでとめたのです。そのことは否定しないでしょう」。

何が起きたかを告げたくだんの修士は、やったことが真実であることを告白したということです。

マルティン修士は、どのように聖人は、「多くの場合に、特に統治していた修道院の人々に関して、彼らがその場にしようといまいと、見ていたかのように預言するたまものを持つにいたったか」という問いに答える形で、この出来事を表明しました。

これはまた、十字架のヨハネの賢明さと良識を伝える重要な事実です。違反者には直接何も言わず、クリスマスの日々を過ごし、その後で、彼のあさましい行為と嘘をとがめることによって、彼を矯正したのです。過失と矯正の間に数日置くという、この注意の喚起や統治の仕方は、クリスマスのような時でない他の機会にも利用されました。

(続く)

ペトロ岐部と 187 殉教者
列福にあたっての祈り



いつくしみ深い神よ、
あなたは、
聖フランシスコ・ザビエルの働きをとおして、
日本の地に福音の種を蒔いてくださいました。
その種は、
信仰と愛を生きる共同体として大きく成長し、
厳しい迫害の中でも、多くの信徒・司祭が、
生と死をとおして主キリストをあかししました。

江戸の殉教者 ^{はらもんど}ヨハネ原主水、
^{きべ}ペトロ岐部神父をはじめ、
188 人の列福にあたって祈ります。

わたしたちも信仰の先輩にならい、
神に対する信頼と人に対する愛をつらぬき、
現代社会の中で、
キリストの証人として生きることができますように。
また信教の自由を含むあらゆる面での人権が、
世界中どこにおいても尊重されますように。
わたしたちの主イエス・キリストによって。
アーメン。

(2008 年 東京大司教区)
ロゴ:カトリック中央協議会

おすし屋 と すずめ と からす

仕事の関係で、私は田園調布～蒲田間の東急バスによく乗ります。田園調布のバス停の前には、道路を隔て、一寸した商店が何軒か並んでいるのですが、バス待ちの間、仕事の終わった安堵感もあって、私はボケーッと周囲の景色を眺めるくせがあります。車道を区切る分離帯、といえは大げさですが、乗車列の真向かいに、一寸した生垣があって、それは、その向こう側に並ぶ商店の目隠し役もしているのです。常緑樹なので、春の新芽の出る頃は、殺風景なアスファルトのバス道路に、少々のおいさを与えてくれます。その向こう側に、お寿司屋、クリーニング屋、小さな喫茶店が並んでいるのですが、このおすし屋の屋根や電線に、いつもといっていい程、沢山の雀がお行儀よく止まりに来るのです。

始めの頃は、ただ、“ああ、随分雀が止っているなあ”と、単純に見ていたのですが、どうしてそうなのか分かってきました。というのは、おすし屋の従業員のお兄さんが、小さなバケツみたような容器に、お米を入れて、時々パッと道路に撒くのです。すると何十羽という、電線に止まっていた雀がチチタタと鳴きながら、アスファルトに撒かれたお米を瞬く間についばんで、再び地上から電線に飛び上がり、そこで食べているのです。ところがそこに悪魔的存在のカラスの群れがやってきます。“遅かった”とくやしそうにチョコチョコ道をつつくのですが、お米はもうすでに雀の体内に入ってしまった。そんなところに、バスがやってきました。すずめも、からすも、全員が同族同志でかたまり合いながら、2本目の電線、3本目の電線へというように待避しました。勿論、すずめ とからすが同じ行動はしていません。大体すずめが電線を占領して、一列横帯に何本かの電線に止まっています。カラスはどうしているかなと思って目で追うと、何とお寿司屋の屋根の上にたむろして止まっているのですが、私の見るところ、お米の一粒も彼らの口には入りませんでした。そして小さな雀の群れも、大きいからすの群れも、次のチャンスを期待しながら、チチとかカアカアと鳴いているのです。 これを見て私は、聖書のあの箇所を連想しました。

「空の鳥を見なさい。種を蒔くことも刈り入れることもせず、また倉に納めることもしない。それなのにあなた方の天の父は、これを養って下さるのである。あなた方は鳥よりも遙かに優れているではないか。あなた方のうち、誰が思い煩ったからとい

って寿命の一刻でも延ばすことができるだろうか……

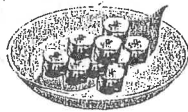
あなた方は「何を食べようか」「何を飲もうか」「何を着ようか」と思い煩ってはならない。これらはすべて、異邦人が切に求めるものである。あなた方の天の父は、これらのものが皆、必要であることを知っておられる。まず神の国とそのみ旨を行う生活を求めなさい……

そうなんだ。何もしないで委ねッパナシは勿論よくないが、努力の後に結果がでない時はおまかせなんだ。この委託の精神が、私にどれだかあるだろうか、私は神の居場所をあげておいているだろうか……

バス待ちの間に、雀とからすの動きを通して、聖書のこの一節を深く味わわせていただいた ひと時でした。

お告げのフランシスコ姉妹会

S r. 熊田 照子



先月号に、本箱の整理をして本を大々的に処分したことを書きましたが、整理の最中に思わず手をとめて座り込んで、頁を繰り続けたものがありました。

78年に発行された平凡社の「太陽」という雑誌の10月号で、「手紙」が特集されています。

漱石、透谷、鴎外、一葉、太宰、・・・等などの30人余りの主に文学者の手紙が掲載され、恋人への手紙、家族への手紙、知人への手紙、そして遺書と100頁にわたっての実物写真付きの大特集です。

便箋のさま、肉筆筆跡のさま、事柄、内容、状況、想い、気持ち、それからまた相手方の姿、様子、互いの関係のありかた、・・・文面には当事者の何もかもが濃密な息遣いとなって顕れ出て、読む側もそれなりの態勢を整えないことには向き合うことが困難な感じを覚えるほどです。

恋する心の告白、家族への切実な愛情、友への絶交宣言、芥川賞をくださいという小説家の懇願のふみ、見事な絵入りの手紙、そこに加えて田中英光が太宰治に宛てた原稿用紙40枚という長文の手紙も全文載っています。

実にさまざまな手紙を目にすることになるのですが、そのどれもが他人事ではない実感を齎し、決して覗き見的な気分ではなく、人間同士の或る普遍性を認めて、身につまされます。

中でも遺書は圧巻で、その人その人の尊厳ともいえる極まりに心触れて、否応なく襟を正す厳粛な思いになります。特に東京オリンピックのマラソン競技で銅メダルを獲得し、次期オリンピックのホープと期待された、円谷幸吉選手が家族に宛てたあの有名な血染めの遺書は、切々と胸に迫る美しい絶筆であまりの哀しさに幾度読んでも涙します。

手紙—— きっと誰もが、心から大切に思う手紙を受取った経験があり誰もが、深く真心を尽くして手紙を書いた経験があるでしょう。またどうしても燃やしてしまわなければならない手紙を燃やしたことはないでしょうか。読んだら必ず棄てて下さいと頼まれたことはないでしょうか。お棺の中に入れてほしいと思う手紙をお持ちでしょうか。

私は何が好きといって手紙ほど好きなものはそうありません。

「手紙には独善性と独走性がある」と論評する作家がいて、なるほどと説得される場所もあるのですが、しかし、やはり何を貰って嬉しいかといって手紙ほど嬉しいものはそうありません。

考えてみるのですが、手紙を書くということは必ず相手のことを念頭に置いているということではないでしょうか。内容如何にかかわらず、その人を想うことなく手紙を書くことは出来ません。云ってみれば手紙を書くときは心は相手に開かれているのです。私は若い頃、いわゆる念禱といわれる時間に、毎日毎日先ずノートに「主イエズス — 」と書き記しました。手紙を書いたのです。

苦しみを打ち明け、助けを求め、ゆるしを乞い、愛を告げ、怒りをぶつけ、泣きました。そしてまた、黙して見つめ合い、聴き惚れ、み衣の房に触り、まどろみました。

互いを深く念頭に置いての親密な二人だけの世界といえます。

今ここに「かみさまへのてがみ」という小さな絵本があります。

(続編「かみさまへのてがみ もっと」) 30年以上も前の出版です。アメリカでは128の新聞に連載されたそうですが、大勢の子ども達が神さまに宛てた英文の手紙が幼い筆跡そのままに載っていて、谷川俊太郎の訳文、葉 祥明の絵が、伸びやかで真っ直ぐで純な魂の世界を描き出しています。日本でも超ロングセラーとか。

正にこの上ない極上の手紙をいくつかご紹介します。

「かみさま こどもにおとうさんとおかあさんがひとりずついるっていうのはとてもいいね それをおもいつくのに ずいぶんじかんがかかりましたか」

「かみさま もしわたしがかみさまだったとしても あなたはどうまくやれませんか がんばってね」

「かみさま ぼくはようしです ようしもほんとのことおなじなの」

「かみさま ぼくのなまえはロバートです ぼくおとうとがほしいの おかあさんはおとうさんにたのめっていうし おとうさんはあなたにたのめっていいます あなたはできるとおもいますか」

「かみさま にんげんって たべものどけっこんでできる？」

「かみさま あなたはどうして じぶんがかみさまだってわかったのですか」

いのちの言葉 10月

与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに置りをよくして、ふところに入れてもらえる。(ルカ 6・38)

あなたは、友人から贈り物を受け取って、お返しをしたいと思ったことはありませんか。「借りを返したいから」というのではなく、真心の愛と感謝の思いから、そうしたいと思ったことが、きっとあるでしょう。

もしあなたにとってそうならば、愛そのものでおられる神にとっては、なおさらのことでしょう。

私たちが隣人にする贈り物すべてに対し、神はいつもお返しをしてくださいます。これは、真のキリスト者が頻りに味わうことです。毎回、驚きを伴う経験であり、実にバラエティに富む神の与え方に、私たちは決して慣れることがないでしょう。こうした経験の例を、私は何千何万と挙げるができますし、一冊の本を書くこともできるほどです。神がしてくださるお返しの豊かさ、その寛大さを意味する「押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに置りをよくして、ふところに入れてもらえる」という表現が、どれほど真実であるかを、あなたも目にすることでしょう。

ローマのフォコラーレでの出来事です。小さなアパートには、福音のみ言葉を生きようとする、数人の若い女性が住んでいました。ある晩、もう休む時間でしたが、ブザーが鳴りました。「こんな時間に、いったい誰だろう」と思いつつ、出てみると、一人の男の人が立っていました。絶望し、パニック状態のその人は、家賃が払えないため、明日には家族ともども家を追い出される、と言いました。女性たちは顔を見合わせて、無言のうちに同じ考えを持ち、机の引き出しをあけました。そこには、彼女

たちの給料や、ガス・電気・電話代にあてられるお金が、いくつかの封筒に分けられて、入っていました。彼女たちはあれこれ考えず、引き出しにあったお金を全部、男の人に渡しました。「自分たちのことは神様が考えてくださる」と信じ、喜びのうちに休みました。

しばらくして、まだ夜も明けないうちに、電話が鳴りました。あの男性からで、「これからタクシーで、すぐそちらに行きます」とのことでした。「タクシーまで使って？」と不思議に思いながら、待っていると、到着した彼の顔からは、状況に何らかの変化があったことが汲み取れました。「家に戻ってみると、遺産相続の連絡が入っていました。自分が相続できるとは思ってもみなかった遺産です。半分は皆さんにお渡ししなければ、と思い、参りました。」それは、女性たちが少し前に寛大な心で彼に手渡したお金のちょうど二倍の額でした。

与えなさい。そうすれば、あなたがたにも与えられる。押し入れ、揺すり入れ、あふれるほどに置りをよくして、ふところに入れてもらえる。

このような経験を、あなたもされたことがありますか。まだだとしても、贈り物は、見返りを期待せずにするもの、相手を選ばずにするものだ、ということを中心にとめましょう。

ためしてみましよう。結果を見るためではなく、神を愛するために、やってみてください。

「でも、私には何も与えるものがありません」とおっしゃるかもしれません。

そんなことはないでしょう。気持ちがあるなら、私たちは、尽きぬ宝を持っているはずです。自由な時間、心、ほほえみ、アドバイス、教養、平和、また、持っている人がそうでない人に与えることができるような励ましの言葉も、あるでしょう。

「でも、誰に与えたらいいかわかりません」とおっしゃるかもしれません。

まわりを見渡してみましょ。入院中の知人、ご主人を亡くされいつも一人ぼっちの奥さん、留年が決まり気を落としている仲間、失業中で元気のない青年、助けが必要な幼い弟、服役中の友人、物覚えの悪い新入社員…こうした人々の中にもキリストがおられ、あなたを待っておられます。

私たちはキリスト者として、福音の精神に満ちた、新たな姿勢で生きることができましょう。それは、自分の中に閉じこもったり、くよくよ悩んだりするのは、逆の生き方です。地上の富ではなく、神に信頼を置きましょう。やがて神から届くお返しへの贈り物は、私たちの信頼に裏付けを与えてくれるでしょう。

むしろ神がこのようにされるのは、私たちが裕福にするためではありません。私たちが与えることによって、小さな奇跡が起こり、それを他の多くの人が目にして、同じように生きることができるようになるためです。

神がお与えになるもう一つの理由は、私たちがたくさん持てば持つほど、より与えることができるから、です。真の「神の財産管理人」として、まわりの人々と何でも分かち合うようにすることです。エルサレムの初代キリスト者共同体について言われていた「彼らの間では、一人も貧しい者がいなかった」¹という言葉が、私たちの間でも実現するようにです。

「与えなさい。そうすれば、与えられる。」このみ言葉を語られた時、イエスは、私たちが天国で得る報いを第一に考えられたでしょうが、地上で起こる出来事は、

天国の報いの前触れであり、それを保証するものなのです。

キアラ・ルービック

「いのちの言葉」(1978年6月)「Essere la tua Parola」(1980年刊) P49-51より

★ いのちの言葉は聖書の言葉を黙想し、生活の中で実践するための助けとして、書かれたものです。

私たちには、子供が4人います。4番目の子を授かった時に、私たちは喜びと共に、不安も感じていました。子供は3人と思い込み、赤ちゃんに必要なものは整理してしまい、また揃えないといけないし、子供の成長と共に経済的な負担も増していくと、人間的に心配してしまいました。でも、神様を第一に考え、み言葉を徹底的に生きようと、二人で話し合いました。そうするうちに、買う必要のあったものが思いがけずいただけたり、今の私たちには、十分すぎる量をいただくこともありました。そこで私たちは、今、必要な分だけ手元に置き、あとは他の人々と分かち合うようにしました。そうすると、次々に必要なものが届くようになりました。

このみ言葉を生きることで、私たちは、神様の業が実現されることを実感しています。

(東京・S)

おわびと訂正：

「いのちの言葉 8月」1ページ2列目22行目を

「魂は 神を待っています。

自分に喜びを与え

自分の存在に意味を与えてくださる神を。」

に、訂正させていただきます。

連絡先

フォコラーレ：03-3707-4018/03-5370-6424

E-mail:tokyofocfem@ybb.ne.jp

ホームページ：

<http://www.geocities.jp/focolarejapan/focolaresito>

¹ 使徒言行録 4・34 参照



目で綴りまたたきをして消しながら天井板に
慣用語イデオムさがす

天守閣金閣銀閣日本閣砂上楼閣多党内閣

神の田や秋の葉の原上の野やその名に遠し車窓
東京

故・クララ 密本 延枝 さまの歌集「オルゴール」より



カルメル会の企画案内



上野毛霊性センター '08年11月~09年3月黙想企画 ** 聖テレジア修道院(黙想) **

1. 一泊聖書深読(毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

11月29日~30日	大瀬高司神父
09/ 1月24日~25日	大瀬高司神父

2. 奉獻生活者のための黙想会

A	8月5日(火) 夕食~	8月14日(木) 朝	九里彰神父
B	8月18日(月) 夕食~	8月27日(水) 朝	渡辺幹夫神父
C	11月8日(土) 夕食~	11月17日(月) 朝	松田浩一神父
D	12月26日(金) 夕食~	09/1月4日(日) 朝	中川博道神父

3. 木曜黙想会 一般黙想(毎回木曜日 10時~16時)

11月6日	松田浩一神父
09/ 1月8日	松田浩一神父
3月12日	中川博道神父

4. 金曜黙想会 カルメルの聖人(毎回金曜日 10時~16時)

12月12日	松田浩一神父
09/ 2月13日	ベルナルド神父

5. 一般黙想会(毎回土曜日 夕食~日曜日16時)

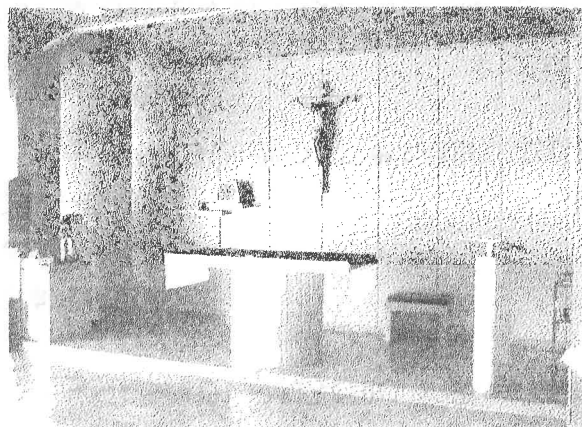
09/ 2月7日~8日	中川博道神父
-------------	--------

6. 召命黙想会(男女) 中川博道神父・松田浩一神父・神学生

11月22日(土) 16時~24日(月) 14時

※22日開始時間が早まりました、ご注意下さい。

7. 祭日のミサに与かるために
【クリスマス】・・チェックイン午後3時、チェックアウト午前10時
12月24日(水)～25日(木)《講話なし、夕食なし》
8. 待降節黙想会 中川博道神父
12月5日(金)20時～7日(日)16時(5日は夕食を済ませてご参加ください)
9. 四旬節黙想会 今泉健神父
09/ 3月6日(金)20時～8日(日)16時(6日は夕食を済ませてご参加ください)
10. 「カルメルの靈性に親しむ」黙想会 中川博道神父
09/3月19日(木)夕食～21日(土)



聖
堂
聖
テ
レ
ジ
ア
修
道
院
(
黙
想
)

電話でのお問い合わせは午前9時から午後4時45分までにお願いします。
またお申し込みは電話でもお受けしますが、間違いを避け、時間も問いませんの
でなるべくFAX・はがき・Eメールでお願い致します(お返事はいたします)

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

聖テレジア修道院(黙想)

TEL 03-5706-7355

FAX 03-3704-1764



「カルメルの靈性に親しむ」

—カルメルの靈性をとおして イエスとの出会いの道を探します—

担当：中川 博道 (カルメル修道会)

どなたでも いつからでもご参加ください

2008年～2009年 予定表

場所：カトリック上野毛教会 (信徒会館)

朝のクラス (火曜日)

夜のクラス (金曜日)

《10:30～12:00》

《19:15～20:45》

了 9月30日	了 9月26日
了 10月21日	了 10月24日
11月25日	11月28日
12月16日	12月19日
2009年	2009年
1月20日	1月23日
2月17日	2月20日
3月24日	黙想会 3月19日(木)20時から 3月21日(土)17時まで

<お問い合わせ：carmel-reisei@hotmail.co.jp>

召命黙想会

信徒の召命・修道者の召命

日時：11月22日(土)16時～24日(月)14時
場所：聖テレジア修道院(黙想) (東急大井町線 上野毛駅下車)

対象：召命を考えている 独身の青年男女(45歳まで)
指導：中川博道神父・松田浩一神父・神学生
費用：一般 10,000円 学生 5,000円
定員：20名

参加をご希望の方は、ハガキ・FAX・E-mailのいずれかで
住所・氏名・年齢・電話番号・所属教会名をご記入いただき
11月15日(土)までに下記宛にお申し込み下さい。(必着)

(お問い合わせ 及び お申し込み先)

158-0093 世田谷区上野毛2-14-25 カルメル会上野毛聖テレジア修道院(黙想)
TEL 03-5706-7355 FAX 03-3704-1764

E-mail: mokusou@carmel-monastery.jp

父なる神様の慈しみ

宗教によって神様のイメージの持ち方が違いますし、私たち一人ひとりもさまざまな神様のイメージを持っています。この黙想会では、イエス様の示した父なる神様に焦点をあてて信仰の糧にしてくださいと考えています。関心のある方は、どうぞいらしてください。

2008年11月6日（木曜日）10時～16時

場所：上野毛聖テレジア修道院（黙想）

指導：松田浩一 神父（男子カルメル修道会）

会費：3500円

持参するもの：ノート、筆記のみ



お問合せ・お申込みはTEL、FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

カルメル会上野毛聖テレジア修道院（黙想）

Tel 03-5706-7355 Fax 03-3704-1764

C.Y.C. (カルメル・ユース・クラブ)

若者の集い

カルメルの靈性 (スピリチュアリティ) の中で
祈りと分かち合いのひと時をすごしてみませんか…

日 時 : 2008年 12月13日 (土)、12月27日 (土)
2009年 1月10日 (土)、1月24日 (土)
午後7時 ~ 9時15分 (9時からカルメル会士とともに「寝る前の祈り」)

対 象 : 35歳までの 青年男女

内 容 : 「聖書」「カルメルの聖人の著作」等の分かち合い、祈り。

場 所 : 上野毛教会 信徒会館ホール 東急大井町線 上野毛駅下車 徒歩7分
(世田谷区上野毛2-14-25)

※参加の申込みは不要です。お問合せに関しましては、下記までお願いいたします。

※カルメル会の各種ご案内は、ホームページにて。 <http://www4.ocn.ne.jp/~carmel/>



男子跣足カルメル修道会 上野毛修道院 (松田浩一神父)

158-0093 東京都世田谷区上野毛2-14-25

[E-mail] tokyo@carmel-monastery.jp

[Fax] 03-3704-1764 [Tel] 03-3704-2171

聖書深読黙想会

〈一泊〉

聖書は、いろいろな方法で読むことができます。
指定された主のみ言葉を、幾人かと共に読み、それを互いに分かち合います。
聖霊の照らしを受けながら、自分に語られる主のみ言葉を深く味わい、共に交
わる人々と、お互いに心を養う機会としましょう。神と人に心を開くことは、
福音を生きることです。皆様のご参加をお待ちしています。

- * 日時：2008年11月29日(土)18時～30日(日)16時
- * 場所：カルメル会聖テレジア修道院黙想・黙想の家
- * 指導：大瀬高司師（カルメル会司祭）
- * 会費：¥7000
- * 持ち物：筆記用具、洗面用具、パジャマ

(タオル、バスタオルは、各部屋に備えあります)

聖書、祈りの本は、黙想の家にあります。

参考書：「聖書深読法の生い立ち」(奥村一郎著 ¥1050)

ご希望の方は、黙想の家でお求め下さい。



お問合せ・お申込は、TEL. FAX、ハガキにてお願いします。

〒158-0093 世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会聖テレジア修道院(黙想)

Tel.03-5706-7355

Fax.03-3704-1764

'08年11～12月まで 黙想会案内 (宇治カルメル会)

宇治聖テレジア修道院 (黙想)

1. 聖書深読

一泊二日 (午後5時～午後4時)

11月 8日 (土) ～ 9日 (日) 中川博道神父

1日 (午前10時から午後4時)

12月13日 (土) 新井延和神父

2. 水曜黙想 (午前10時～午後4時)

11月19日 三位一体のエリザベット ベルナルド神父

12月17日 十字架の聖ヨハネ 渡辺幹夫神父

3. 待降節黙想 (午後5時～午後4時)

12月6日 (土) ～7日 (日) 新井延和神父

4. 奉獻生活者のための黙想 (午後5時～午前9時)

12月27日 (土) ～1月5日 (月) 新井延和神父

5. 青年のための黙想会・男女 (午前10時～午後5時)

11月2日 (日) カルメル宣教修道女会、渡辺幹夫神父

その他皆様が企画なさったグループ黙想会、個人黙想も歓迎いたします。

*申し込み方法

電話でも受け付けておりますが、できるだけFAXあるいはハガキでお名前と連絡先をご記入の上お申し込みください。なお、お電話でお申し込みの場合、なるべく午前9時～午後5時の間にお願いいたします。受付が休みになっている時はすぐに返事できませんので、お手数でも後日改めてお問い合わせくださるようお願い申し上げます。

宇治カルメル会 聖テレジア修道院 (黙想)
 〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12
 TEL 0774-32-7016
 FAX 0774-32-7457

「立ちどまって、ひとりになって、感じてみよう！」

～都会の中の日静修～（2008）

この会は、現代の忙しい社会の中にあつて、また都会の中にあつて、神様との静かなひとときを過ごすために企画しました。イエス様は、「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる。」（マタイ28：20）と言われました。

ともにいるイエス様とのひとときを、都会の真ん中で過ごしてみたいかでしょうか。

今年は、年間共通テーマとして、「祈りを生きる～主よ、私たちに祈ることを教えてください～」としました。

このテーマを通して、魂の呼吸であるといわれる祈りを、日々の神様との出会いの中で、主のみ前に自分をおき、静かに主のみ声に耳を傾け、主と語り、主を生きる喜び、恵み、愛を思い巡らしながら、神様と交わりをより深めていく事ができるたらと願っています。

本年度最終

第10回 11月22日（土）

「十字架の聖ヨハネと祈り」 九里彰神父（宇治修道院）

- * 時間 AM10:00～PM4:00
- * 場所 カトリック日比野教会(地下鉄・名城線日比野下車徒歩約5分) * 聖テレジア幼稚園隣接
* 駐車場は利用できません。
- * 費用 1,000円
- * 持ってくるもの 聖書、筆記用具、口ザリオ、弁当
- * 定員 約20名
- * プログラム
 - 10:00～ 祈り
 - 10:40～ 講話【1】
 - 12:00～12:45 昼食
 - 12:50～ 赦しの秘跡または短い面接
 - 13:30～ 講話【2】
 - 14:45～ ミサ
 - 15:30～ 茶話会
 - 16:00～ 終了

☆ 空いている時間に、赦しの秘跡または短い面接を受けることができます。

申し込みは、下記の住所へVガキかFAXで、氏名・住所・TEL を記載の上、開催日の3日前までに必着のこと。なお、日比野教会で葬式などがある場合は、中止となりますので、ご了承下さい。

☆ 名古屋カルメル霊性センター—日静修係

〒456-0062 名古屋市熱田区大宝4-5-17カルメル会日比野修道院 FAX 052-671-1825

または、〒465-0058 名古屋市名東区貴船3-2115 小林厚 TEL/FAX 052-701-3685

聖書深読センターのご案内

- 1 東京・・・上野毛聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。
- 2 宇治・・・宇治聖テレジア修道院（黙想）の案内をご覧ください。

通信深読について

通信深読は、現在何箇所かで行われているようです。そのうち2箇所が新たに参加可能なので、紹介します。

1 朝日カルチャーセンターの通信講座

参加者は、「個人素読」（記号、全、所感、近況報告などを書くB5用紙）を提出。
講師のコメントが記入されて返送される。参加者全員の「個人素読」と「素読表」そして解説が冊子になって送られる。

費用：6ヶ月 17,900円（4、7、10、1月に納入） 継続の場合は 15,950円

講師：九里彰師（奇数月） 新井延和師（偶数月）

問い合わせ：〒163-0278 東京都新宿区西新宿2-6-1 新宿住友ビル

私書箱21号 朝日カルチャーセンター通信講座部

電話 03-3344-2527（直通）

2 ミニ深読

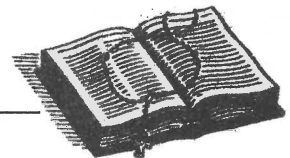
グループで2、3時間かけて聖書深読法の一部を行います。

聖書深読黙想会に参加経験のある方に限ります。

遠方に、参加希望者が多数いる場合には、有光、またはSrパウリーナが指導に行くことも可能です。

問い合わせは「聖書深読センター」事務局 Srパウリーナまでご連絡下さい。

- ◎ 聖書深読に関してご質問のある方は、下記聖書深読センターにお問い合わせ下さい。



聖書深読センター

〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会聖テレジア修道院（黙想）

所長：奥村一郎神父 事務局長：新井延和神父 連絡先：Srパウリーナ

TEL 0774-32-7016 FAX 0774-38-2543

Eメール carmis@mbox.kyoto-inet.or.jp

カルメル会出版物のご案内

雑誌「カルメル」NO.329 (2008年夏号)「今日の靈性」

- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (10) …高橋正行
愛は愛を呼ぶ …中川博道
十字架のヨハネ講話 (11) …フェデリコ・ルイス
愛で生きる (9) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (6) —夫亡き後のギット …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(1) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (1)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (21) —希望の翼 …伊従信子
神の愛・人の愛 —共生・共依存など …谷口正子
愛の断章 (8) …奥村一郎

雑誌「カルメル」NO330 (2008年秋号)「今日の靈性」

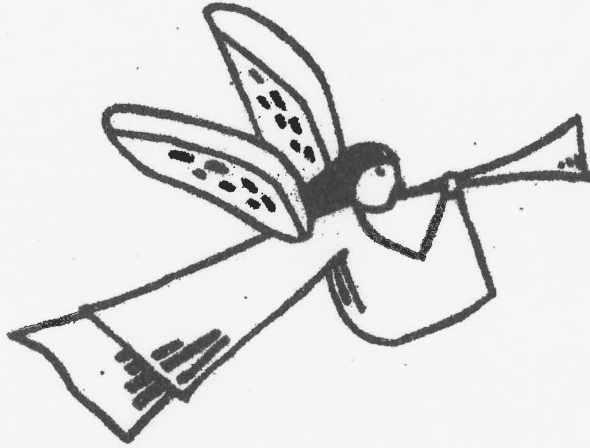
- 聖霊の光のもとに —教父たちの教えと生き方 (11) …高橋正行
マリアの旅 (1) —マリアと共に聴く …中川博道
十字架のヨハネ講話 (12) …フェデリコ・ルイス
今日の歌 (1) …ペトロ・アロイジオ
エリザベットの「魂のこだま」、ギット (7) …伊従信子
エディット・シュタイン「カルメル会への道程
—ケルン・カルメル会に入りたいきさつ」(2) …須沢かおり
「小さい道」の巡礼者 (2)
テレーズの修練者—三位一体のマリー …中山眞里
幼きイエスのマリー・エウジェンヌ師 (22) …伊従信子
ひとつの村が消える …森みさ
愛の断章 (9) …奥村一郎

※雑誌「カルメル」はどなたでもご購入できます。ご希望の方は、年会費（年5冊：春夏秋冬号＋特集号、送料込み）として、3000円を下記へお振込みください。

郵便振替：00190-4-195457 跣足カルメル修道会

（お問い合わせは、事務担当竹田まで。TEL (03) 5706-8356）

諸所の企画案内



朝日カルチャーセンター

心のいほり

真命山霊性交流センター

リーゼンフーバー神父キリスト教講座

ノートルダム・ド・ヴィ

ノートルダム教育修道女会

聖書に読むキリスト降誕の神秘

講師 カルメル会司祭 九里 彰

「教会でもクリスマスをやりますか」という笑い話もあるように、戦後、クリスマスは日本の歳時記の中にすっかり定着しました。デパートの華やかな飾りつけが人々の目を引き、さまざまなクリスマス・ソングが街に流れます。家庭では、ツリー、ケーキ、プレゼントは欠かせないものとなっているでしょう。けれども、肝心のキリストの姿はどこにも見当たらず、サンタ・クロースが主役というのが実情ではないでしょうか。これも、きわめて象徴的です。クリスマスがキリストの過越しの神秘と共に、キリスト教信仰の根幹に関わる神秘的なのだということは、ほとんど意識されていません。今回は、聖書の誕生の場面に光をあてながら、この降誕の神秘を皆さまと共に、思いめぐらしたいと思います。
(講師・記)

〈講師紹介〉 九里 彰 (くのり・あきら)



上智大学在学中、第9回サンケイ・スカラシップ奨学生としてミュンヘン大学へ留学。1997年カルメル会司祭となる。その後、アヴィラのカルメル会国際神学院およびマドリードのコミッサス大学で霊性神学専攻課程を卒業。現在、カルメル会宇治修道院院長、養成担当。訳書にH・U・フォン・バルタザール著『過越の神秘』(サンパウロ)

- 日 時 2008年11月30日〈日曜日〉 13:00~15:00
- 場 所 新宿住友ビル7階 朝日カルチャーセンター (裏面参照)
- 受講料 3,400円(税込み)

[お申し込み方法]

①電話かインターネットでご予約下さい。払込用紙をお送りします。

※講座名を必ずご指定下さい。

②コンビニエンスストアから受講料をお振込み下さい。

受領証は当日ご持参の上、教室受付でご提示下さい。ご送金後から当日まで、特別の変更がない限り、弊社から連絡は差し上げません。また、日曜・祝日をのぞいて、新宿住友ビル4階受付でもお申し込みいただけます。

内観黙想の予定表

先の予定表と若干変わっていますので、開始の曜日や時間などにご注意下さい。

◎参加費用は、6泊7日ですべてを含み6万円です。

◎ファックス・手紙でセンターに問い合わせて下さい。電話では取次いでおりません。
申し込みは会場予約準備がありますので、10日前までに完了をお願いします。

◎〒572-0001大阪府寝屋川市成田東町3-27「心のいほり 内観瞑想センター」
藤原神父 FAX 072・802・5026
<http://www.com-unity.co.jp/naikan>

予約の決まった後に、会場までの詳しい地図などの書類をお送りします。

★2008年度★

了	H1	08・08・18 (月)	2時から	08・24 (日)	2時まで	姫路仁豊野・マリア
了	P3	08・09・13 (土)	2時から	09・19 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
了	K4	08・09・28 (日)	2時から	10・04 (土)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
了	Y3	08・10・07 (火)	2時から	10・13 (月)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	N2	08・11・04 (火)	2時から	11・10 (月)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	P4	08・11・30 (日)	2時から	12・06 (土)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	08・12・09 (火)	2時から	12・15 (月)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	O1	08・12・23 (火)	2時から	12・29 (月)	2時まで	長野・大鹿村・草々庵

★2009年度★

	P1	09・01・10 (土)	2時から	01・16 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K1	09・01・28 (水)	2時から	02・03 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	Y1	09・02・18 (水)	2時から	02・24 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	K2	09・03・04 (水)	2時から	03・10 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	P2	09・03・21 (土)	2時から	03・27 (金)	2時から	兵庫・売布・女子ご受難会
	F1	09・04・25 (土)	2時から	05・01 (金)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	M1	09・05・21 (木)	から	05・28 (木)		盛岡・変則的な計画。仔細は後日
	K3	09・06・08 (月)	2時から	06・14 (日)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N1	09・06・24 (水)	2時から	06・30 (火)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F2	09・07・10 (金)	2時から	07・16 (木)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	Y2	09・07・22 (水)	2時から	07・28 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	O1	09・08・23 (日)	2時から	08・29 (土)	2時まで	長野・大鹿村・草々庵
	P3	09・09・12 (土)	2時から	09・18 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	Y3	09・10・07 (水)	2時から	10・13 (火)	2時まで	神戸・須磨・ヨハネ
	K4	09・10・21 (水)	2時から	10・27 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会
	N2	09・11・02 (月)	2時から	11・08 (日)	2時まで	滋賀・唐崎・ノートルダム
	F3	09・11・16 (月)	2時から	11・22 (日)	2時まで	福岡・御受難会黙想の家
	P4	09・11・28 (土)	2時から	12・04 (金)	2時まで	兵庫・売布・女子ご受難会
	K5	09・12・09 (水)	2時から	12・15 (火)	2時まで	東京・小金井・聖霊会

2008年度真命山祈りの集いのご案内

年間テーマ：「聖霊による祈り」

祈りの集い(午前10時～午後2時30分)

●11月13日 聖霊による祈り

●12月11日 霊と花嫁が言う：『主よ、来てください』



指導者：フランコ・ソットコルノラ神父
(真命山院長)

※個人またはグループでの黙想会や研修会も
研修会も歓迎いたします。(要予約)

申し込み先

〒865-0133

熊本県玉名郡和水町蜻浦 1391-7

真命山諸宗教対話・霊性交流センター

TEL 0968-85-3100; Fax 0968-85-3186

e-mail: shinmeizan@chive.ocn.ne.jp

リーゼンフーバー神父 講座・集い 案内

2008～2009年

- キリスト教入門講座** 金曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
どなたでも。聖書に基づきキリスト教の基本テーマを取り扱います。
- キリスト教理解講座** 毎月第1・第3・第5火曜日 18時45分～20時30分 聖イグナチオ教会信徒会館3階アルベホール
キリスト教の基礎知識を持っている方。2年間のコース。
信仰理解と信仰生活の深まりを目的とし、キリスト教の中心的テーマを探究します。
- 聖書研究会** 木曜日 12時45分～13時25分 上智大学7号館316号研究室
学生のどなたでも。新約聖書を1章ずつ読んで勉強します。
- 坐禅会** ●月曜日 17時20分～20時10分
●木曜日 18時～20時30分
上智大学内 Kultourハイム1階左の部屋。祝日を除く。
3回坐り、間に講話があります。
どなたでもどうぞ。初心者も歓迎です。遅刻、不定期の参加も可。
- 接心** ● 4月28日(月)20時30分～5月5日(月)13時
6月20日(金)20時30分～22日(日)13時
8月9日(土)20時30分～16日(土)7時30分
10月29日(水)20時30分～11月3日(月)13時
2009年2月21日(土)8時30分～22日(日)15時30分 上石神井。5400円程度。
● 5月31日(土)13時～6月1日(日)16時
8月1日(金)17時30分～7日(木)13時
秋川神真窟。1泊2400円程度。
宝塚市
- ミサ** 水曜日 17時10分～18時 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)
- 黙想** ●「会社帰りの黙想」毎月第2・第4火曜日 18時45分～20時 聖イグナチオ教会マリア聖堂
どなたでも。但し祝日、8月12日は休み、8月26日は上智大学内 Kultourハイム聖堂。
12月25日(木)はクリスマスの黙想(予定)。
●水曜日 18時～18時30分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
どなたでも。(4月30日、8月全休、祝日は休み)
●逢う逢はず 8月23日(土)～8月31日(日) 18時～20時45分 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 祈りの集い** ●下記の土曜日 13時30分～16時 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
講話、黙想、ミサがあります。
4月12日、5月10日、6月7日、7月12日、8月9日、9月6日、10月11日、11月8日、12月13日、
2009年1月10日、2月7日、3月14日
●ロザリオの祈り 同日16時10分～16時50分 上智大学内 Kultourハイム1階右小聖堂
- 黙想会** 6月14日(土)10時～15日(日)15時、9月13日(土)10時～15日(月)14時、12月6日(土)10時～7日(日)15時(東村山)、2009年1月31日(土)10時～2月1日(日)15時、上石神井。1泊5400～5600円程度。
- アガベ会** 下記の日、説明会(13時30分)と集い、ミサ(14時～18時) 上智大学内 S.J.ハウス第5会議室
4月19日(土)、6月28日(土)、10月12日(日)、2009年1月25日(日)
- クリスマス会** 12月20日(土) 16時30分 聖イグナチオ教会マリア聖堂、18時 岐部ホール。要申し込み。
クリスマスのミサ 12月23日(火) 14時～ 上智大学内 Kultourハイム聖堂
- 問い合わせ・連絡先** クラウス・リーゼンフーバー神父(上智大学文学部哲学科教授)
〒102-8571 東京都千代田区紀尾井町7-1 上智大学 S.J.ハウス
電話 03-3238-5124(直通)、5111(伝言)、FAX 03-3238-5056
http://www.jesuits.or.jp/~j_riesenhube/index.html

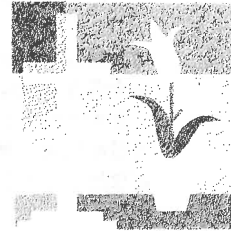


リーゼンフーバー神父キリスト教入門講座 2008年～2009年

日 時 毎週金曜日 18時45分～20時30分

各回のテーマ

- 11 / 7 ミサ祭儀—神への奉仕と生活の糧
- 11 / 14 自己実現と神の意志—生き方の模範
- 11 / 21 人間の弱さ—罪とは何か
- 11 / 28 恵みとゆるし—神の憐れみを受ける
- 12 / 5 愛の心—キリスト教の本質
- 12 / 6～7 黙想会（東村山）
- 12 / 12 隣人愛—他人のうちにイエスに出会う



リーゼンフーバー神父キリスト教理解講座 2008年～2009年

日 時 第1・3・5火曜日 18時45分～20時30分

各回のテーマ

- 11 / 4 「イエス」 神の国—イエスのミッションと使信
- 11 / 18 根本たる愛—律法の完成と克服
- 12 / 2 受難による救い—イエスの救済的役割
- 12 / 6～7 黙想会（東村山）
- 12 / 16 死からの命—復活の認識・経験・理解

《場所・お問い合わせ》

場 所 聖イグナチオ教会（四谷駅前）信徒会館3階アルペホール
電 話 03-3263-4584

いのちの泉へ

すべての人のための祈りの集い

カルメルの霊性に学びつつ、キリスト者としての霊性を
養うための講話と沈黙の祈りで構成された集いです。

カルメルの霊性を、より深めたい方のグループと、
若い方、基礎的な信仰を学びたい方のグループがあります

2008年11月8日(土)

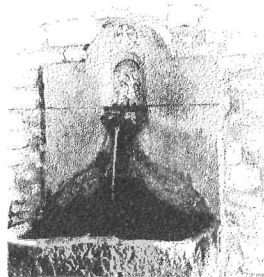
講話 伊従信子・片山はるひ

* 次回の予定 2008年12月6日(土) *

午後2時より 講話・祈り・分かち合い

午後5時半 主日のミサ(参加自由です)

参加費 200円



お申し込み・問い合わせ

ノートルダム・ド・ヴィ

〒177-0044 練馬区上石神井4-32-35

TEL(03)3594-2247 FAX(03)3594-2254

e-mail notredamedevie.japan@gmail.com

(メールアドレスが変更になりました)

カルメル会の霊性を受け継ぐ ノートルダム・ド・ヴィ (いのちの聖母会) は、
現代社会のあらゆる場で社会人として働きながら、神への全き奉獻を通して、
祈りと活動の一致を生きることを、その精神・理想としています。

ノートルダム教育修道女会 唐崎修道院

◎ 所在地： 〒520-0106 滋賀県 大津市 唐崎 1丁目 3-1
Tel： 077-579-7580
Fax： 077-579-3804
E-メール： karainorind92@mbe.nifty.com

◎ 交通： JR 京都駅から湖西線で三つ目「唐崎」下車。
琵琶湖の方へ徒歩 約 13 分

- A. 8 日間の個人指導による黙想 …08 年度終了
- B. 祈りの体験：週末 3 日間（金曜日の夕食～日曜日の昼食）
【神との親しさの中で日常を生きるために】
⑮11 月 7 日（金）～9 日（日）
他の黙想会が行われている場合があります。
- C. 自己発見から神へ I 【講話と実習】 …08 年度終了
- D. 上記の日程以外の日に、個人で黙想をなさりたい方は、問い合わせてください。

◎ 対象： 信徒、修道者、司祭、洗礼を受けていない方、どなたでも参加できます。

◎ 霊的同伴者： トニー・プロトニャック（マリール宣教師） 安井 昌子（ノートルダム教育修道女）
菊池 陽子（ノートルダム教育修道女） 松本 佳子（ノートルダム教育修道女）

◎ 申込み： 1) 名前 2) 住所 3) 電話番号 4) 希望日程(番号) を書いて
郵送、または、Fax で「黙想係」安井昌子 へ申し込んでください。
唐崎修道院への案内地図の必要な方は、その旨を書き添えて下さい。

いずれの場合も、10 日前までに申し込んでください。 但し、それ以前に
満室になった場合は、次の機会にお願いすることがあります。

◎ その他： 受付(チェック・イン)は、いずれの場合も、初日の 15 時から 16 時 45 分まで。
問い合わせは、電話 または、E-メールを ご利用ください。

奥村一郎

全9巻 選集

四六判・上製・平均240頁 各巻定価 2,100円
オリエンス宗教研究所

深い信仰と豊かな靈性、
透徹した知性が織り成す
奥村神学の全貌

祈りと思索の日々はときに私を新たな地平へと導く。カトリック修道者となつてなお続く禪との関わりや宗教対話の積み重ねが、やがて「関係の神学」として結実したことはその一つである。自己形成や修徳主義を基軸とする「個の靈性」の行き詰まりの中で、福音の原点である相互愛に基づく「関係の靈性」は日本文化とキリスト教など、その後の私の問題関心を深めてくれた。

—著者による「刊行にあたって」より



奥村一郎 ● カルメル会司祭

1923年生まれ。旧制高校時代より『正法眼蔵』に親しみ、中川宋淵老師に師事する。東京大学法学部、同大学文学部卒業後、カルメル会入会のため渡仏。帰国後は京都ノートルダム女子大学教授、聖母女学院短期大学学長、教皇庁諸宗教対話評議会顧問などを歴任。



〔全9巻の主な内容〕

- 第1巻 慈悲と隣人愛 (解説) 西村恵信 **刊行済**
カトリックから禪へ／小事と瑣事／禪とキリスト教における靈的修行
- 第2巻 多文化に生きる宗教 (解説) 橋本裕明 **刊行済**
大いなる賭——宗教対話／遠藤周作さんを偲ぶ
- 第3巻 日本の神学を求めて (解説) 小野寺 功 **刊行済**
日本の神学——根源への問い／相互愛／「信ずる」と「愛する」
- 第4巻 日本語とキリスト教 (解説) 阿部仲麻呂 **刊行済**
日本人の心とその精神構造／「ことば」から「みことば」へ
- 第5巻 現代人と宗教 (解説) 鶴岡賀雄 **刊行済**
現代人とキリスト教／偶像の喪失／退屈／全人教育と真人教育
- 第6巻 永遠のいのち (解説) 八木誠一 **刊行済**
嬰兒復帰／人間の栄光と悲慘／信仰と苦しみ／十字架の秘義
- 第7巻 カルメルの靈性 (解説) 高園泰子 **刊行済**
アビラのテレジア／十字架のヨハネ／小さきテレズと東洋的靈性
- 第8巻 神に向かう〈祈り〉 (解説) 高橋重幸 **刊行済**
考える祈り、思う祈り、愛する祈り／現代における祈りの指導者
- 第9巻 奉獻の道 (解説) 宮本久雄 **刊行済**
清らかな矛盾／修道と世俗／清貧の誓願／現代に生きる修道者の靈性

順次刊行中 2008年6月完結予定

リジューの聖テレーズ布教事業の保護者宣言80周年

記念御絵



* ご絵は、カルメル会上野毛修道院で取り扱っています。

- A. 6cm×10.5cm (¥30)
- B. ハガキ (¥100)
- C. 25.5cm×30.5cm (¥300)

上記の3種類のサイズがあります。ご希望の方は、FAXにて
サイズ別の枚数をご記入の上、お申込み下さい。

FAX: 03-3704-1764

投稿募集

テーマ：「キリスト教との最初の出会い」

仏教国である日本において、読者の皆さまがどのようにしてキリスト教に出会ったか、その最初のきっかけ、エピソードなどをB5で2枚前後に簡単にまとめ、送ってください。求道者の方々にも興味深いことと思われれます。

》投稿規程《

- * 締切り：原則的に毎月10まで
- * 原稿サイズ：B5 左右の余白20mm
- * 原稿はできる限り、ワープロかパソコンでお願いします。
- * E-mailでの投稿は、添付ファイルで、tokyo@carmel-monastery.jp宛にお願いいたします。
- * 「心の泉」のコーナーについては小題をつけて。
- * 「諸所の企画」のコーナーについては、
 - ① 主催するグループ名もしくは個人名を明記。
 - ② 活動内容。例えば、「黙想会」、「祈りの集い」等。
 - ③ 月間、あるいは年間の具体的計画。
 - ④ 連絡先等。
- * 寄稿連絡は、^{くのり}九里 彰神父宛にお願いいたします。住所が変わります！
〒611-0002 京都府宇治市木幡御蔵山39-12 カルメル会修道院
Tel(0774)32-7456 Fax(0774)32-7457

「カルメル霊性センター」のホームページ

YAHOOで「カルメル霊性センター」を検索してください！！

ホームページのアドレスは以下の通りです。

<http://www4.ocn.ne.jp/~carmel>

『靈性センターニュース』郵送ご希望の方

下記まで、郵送ご希望の月数分×220円を現金で送ってください。切手では受け付けておりません。これは、あくまでも郵送代実費です。

〒158-0093 東京都世田谷区上野毛 2-14-25

カルメル会上野毛修道院 「靈性センター事務局」

「上野毛靈性センターへの献金」のお願い

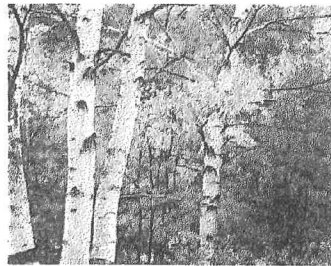
「靈性センターニュース」は、現在、上野毛靈性センターで編集、印刷、製本、発送等を行っておりますが、経費はすべてカルメル会で負担しております。読者の皆様のご理解とご協力をいただければ、幸いです。

* 献金される方は、下記の口座へお振り込みください。

郵便番号口座： 00110-4-297250

加入者名： カルメル靈性センターニュース

なお通信欄へは「献金」とご記入ください。これは、上記の郵送代ではなく、献金として取り扱わせていただきます。



編集後記

先日、北海道の伊達女子カルメル会で荘厳請願式があり、管区長代理として参列した。当日は天候があやぶまれたが、幸い雨は降らず、多くの方々が、修道会、教会に与えられたこの大きな恵みを天の御父に感謝し、喜びを共にした。

司式の地主司教さまが説教の最初に、「おめでとうと言っているのか、ご愁傷さまと言っているのか」と言われ、笑いを誘ったが、確かに複雑な心境ともなる。北海道は、すでに紅葉が始まっており、その美しい自然に引き寄せられるように、多くの観光客が国の内外から訪れていた。団体旅行客、家族連れ、若い女の子のグループ、カップルなど、さまざまであるが、みな楽しさを満喫していた。そのような一般の人々の生活スタイルを捨てて、一生、禁域の中で、修道服をまとい、つつましい生涯を送ることは、並大抵のことではない。とはいえ、だからこそ、その生活が多くの人々の前でキリストへの愛の証しとなるのであろう。合掌

(P.九里)



ベルナート・ファン・オルレイ
1488頃-1542
聖母子
マドリッド プラド

